

エコアクション21

環境経営レポート



平成29年度 《平成29年4月1日～平成30年3月31日》



発行年月日 平成30年6月26日



宮田建設株式会社

目 次



- 0. 環境方針
- 1. 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 環境経営システム組織図・・・・・・・・・・ 2
- 3. 基準年度の環境負荷と環境目標・・・・ 3
- 4. 環境活動計画の主要内容・・・・・・・・・・ 4
- 5. 環境活動取組結果の評価・・・・・・・・・・ 5～8
 - (1) 目標達成状況 評価 5-1 5-2
 - (2) 年度別推移 6-1 6-2
 - (3) 売上げとの比較推移 7-1 7-2
 - (4) 削減による経済効果 8
- 6. 次年度の活動計画の内容・・・・・・・・・・ 9
 - (1) 二酸化炭素の排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 総排水量・資源投入の削減、グリーン購入の推進
- 7. 環境関連法規等の遵守状況・・・・・・・・ 10
- 8. トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 9. 代表者によるコメント・・・・・・・・・・ 11

環境方針

◎基本理念

「建物を建てる」ということの意味を私たちは日々考え続けなければなりません。建物を建てる時、私たちはたくさんの資源を使います。それと同様に、たくさんの人が関わります。

私たちは「建設」という業務を通じて自然との共生を目指す事を使命とし、建設材料や副資材等のグリーン購入に取り組みます。

ロゴマークの由来

宮田建設では、会社のスローガンをロゴマークとして現しています。

それぞれの色・形には意味があり、それぞれが組み合わさることで会社のスローガンである「人と自然との共生」を表現しました。



（環境保全への行動指針）

私たちは、建築設計施工を通じ、省エネ・省資源に配慮した提案や活動を致します。

1 具体的に次のことに取り組みます。

- *CO2削減効果の高い建物の推進。
(エコキュート・エネファーム・太陽光発電の提案)
- *長寿命建築の推進。
(既存建物の調査・診断・改修工事の提案)
- *産業廃棄物の削減はもとより分別を徹底してリサイクルを推進します。
- *グリーン購入の推進。
- *水や電気の使用削減・省エネ運転等の使用エネルギー削減に努めます。
- *IT活用等によるコピー・プリンター用紙の削減。

これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2 環境関連法規を遵守し、環境保全のレベル向上に努めます。

3 環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

改訂日 平成23年5月18日

宮田建設株式会社

代表取締役 横井 成昭

1. 事業の概要

(1) 事業所及び代表者名
 宮田建設株式会社
 代表取締役 横井 成昭

(2) 所在地
 〒807-0831
 北九州市八幡西区則松四丁目3-10

大分営業所：
 〒870-0854
 大分市羽屋217番地5



(3) 法人設立年月日
 昭和46年7月23日

(4) 環境関係の責任者及び担当者 連絡先
 環境管理責任者 代表取締役副社長 横井 久美
 環境事務局 総務部 西村 由紀
 連絡先 (TEL) (093)602-8818
 (FAX) (093)603-3366
<http://www.miyata-kk.cm/>
 e-mail hello@miyata-kk.com

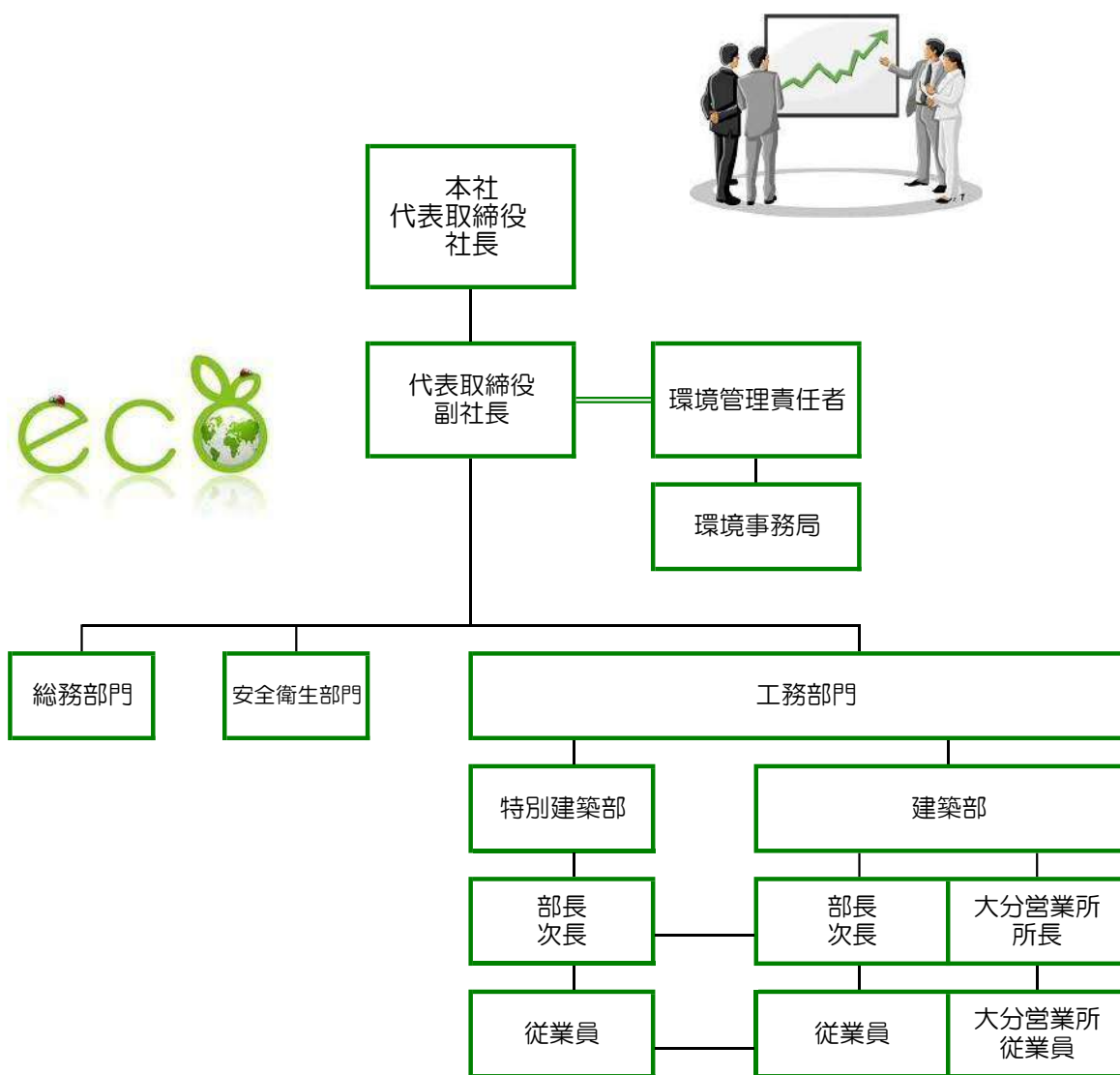
(5) 主な事業内容
 ＊＊＊福岡県知事 (特)第32172号
 建築工事業一式 大工工事業
 土木工事業一式 建具工事業
 水道施設工事業 内装工事業
 とび・土工工事業 塗装工事業
 防水工事業 解体工事業
 ＊＊＊一級建築士事務所登録 第1-20409号

(6) 事業の規模

| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上(百万円/年) | 1,751 | 1,963 | 2,962 | 2,549 | 2,003 | 2,548 | 1,958 |
| 従業員(人) | 18 | 24 | 23 | 22 | 22 | 23 | 24 |
| 床面積(m ²) | 337.9 | 337.9 | 337.9 | 337.9 | 337.9 | 337.9 | 337.9 |

当社の事業年度 4月1日～翌年3月31日
 ※H24年12月1日に(株)筑前工務店と合併、H24年度の数値は合併後4か月を含んだ値を示す。
 〇〇〇〇 力所

2. 環境経営システム組織図



* 認証登録範囲は、全社及び全活動です。



pixta.jp - 16028942

3. 基準年度の環境負荷と環境目標

《本社・営業所》

| 環境目標 | 単位 | H20年度 (基準年度) | H25年度 実績 | H26年度 実績 | H27年度 実績 | H28年度 実績 | H29年度 実績 | H30年度目標 | | H31年度目標 (前年比) | H32年度目標 (前年比) | |
|--------------------|-------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|-------|------------------|------------------|-------|
| | | | | | | | | 前年比 | 目標値 | | | |
| 二酸化炭素排出量 | ton -CO ₂ | 95.6 | 99.4 | 79.5 | 80.7 | 76.7 | 73.6 | -0.1% | 73.5 | -0.1% | -0.1% | |
| 電気使用量 | 千kwh | 46.7 | 28.1 | 25.4 | 26.4 | 23.4 | 25.1 | -0.1% | 25.1 | -0.1% | -0.1% | |
| 灯油使用量 | kℓ | 1.4 | 2.0 | 1.9 | 1.6 | 1.5 | 1.5 | -0.1% | 1.5 | -0.1% | -0.1% | |
| ガソリン使用量 | kℓ | 15.4 | 19.7 | 16.0 | 17.5 | 17.3 | 15.1 | -0.1% | 15.1 | -0.1% | -0.1% | |
| 軽油使用量 | kℓ | 13.2 | 13.4 | 9.8 | 8.9 | 8.2 | 8.7 | -0.1% | 8.7 | -0.1% | -0.1% | |
| 液化石油ガス | kg | 54.6 | 43.8 | 12.4 | 7.6 | 6.8 | 10.1 | -0.1% | 10.0 | -0.1% | -0.1% | |
| 廃棄物 排出量 | 紙くず (一般) | ton | 1.4 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | -0.1% | 0.1 | -0.1% | -0.1% |
| | 木くず (建設副産物) | ton | 70.9 | 81.4 | 101.1 | 69.3 | 104.5 | 63.8 | -0.1% | 63.7 | -0.1% | -0.1% |
| 総排水量(給水量) | m ³ | 176.0 | 175.0 | 135.0 | 174.0 | 129.0 | 120.5 | -0.1% | 120.4 | -0.1% | -0.1% | |
| 資源投入の削減 (コピー用紙) | 千円 | 126.0 | 237.0 | 126.2 | 121.0 | 106.8 | 113.2 | -0.1% | 113.1 | -0.1% | -0.1% | |
| グリーン購入 の推進 | 千円 | 41.2 | 1,140.0 | 580.2 | 273.0 | 418.0 | 238.2 | — | — | — | — | |

※上記の目標数値は、大分営業所も含む。

※H30年度の目標数値は、H29年度実績をベースにしています。

※電気の二酸化炭素排出係数は、H28年度 九州電力0.462(kg-CO₂/kWh)を用いた。
(H28年以前もこの係数で排出量の見直しを行った)

※グリーン購入は、EAを取り組む事業者にとっては当たり前のため、目標から外します。

《建設現場》 H29年度環境目標

| No. | 目標項目 | 活動計画 |
|-----|--------------------|---|
| 1 | 二酸化炭素排出量 | 電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制 |
| 2 | 商品の省資源化 | 建築物の長寿命化・ゼロエネルギーを推進するとともに技術提案を行う。 |
| 3 | 大気汚染排出の削減 | 設計時にZEH(「ゼッチ」ネットゼロエネルギーハウス)導入の提案を行う。 |
| 4 | グリーン購入の推進 | エコマーク商品の購入等、再使用又はリサイクルしやすい製品を購入・使用するよう取組む。 |
| 5 | 建設騒音・振動の発生を極力防止する。 | 現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工する。 |
| 6 | 地域との協調ならびに景観保存。 | 地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持する。 |
| 7 | 水使用量の削減 | バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。 |

* 建設現場については、年度によって受注量が変わるので、数値目標でなく、環境活動を目標とします。

4. 環境活動計画の主要内容

● 二酸化炭素排出量0.1%の削減

- (1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め実行する
 - ② 昼休みの消灯
 - ③ 残業時の不要な照明の消灯
- (2) 灯油の使用量の削減
 - ① ストープの効率使用（重ね着等の励行）
- (3) ガソリン・軽油の使用量の削減
 - ① アイドリングストップの励行
 - ② 不要な荷物は積まない
- (4) 液化石油ガスの削減
 - ① 給湯器等の効率使用
- (5) 廃プラ焼却「ゼロ」の維持
 - ① 使い捨て容器入りの弁当等の購入禁止



● 廃棄物排出量の0.1%の削減

- (1) 裏紙使用。ペーパーレス化の推進により、紙使用量の削減
- (2) 部材、端材の転用により、木くず発生量を抑制する

● 総排水量0.1%の削減

- (1) 水使用量の削減
 - ① 小便使用時は小で流す
 - ② 手洗い、洗い物における節水



● 商品の省資源化

- (1) 建築物の長寿命化・ゼロエネルギーの推進と提案を行う。

● 大気汚染排出の削減

- (1) 敷地内、壁面、屋上等の緑化に取り組む。

● グリーン購入の推進

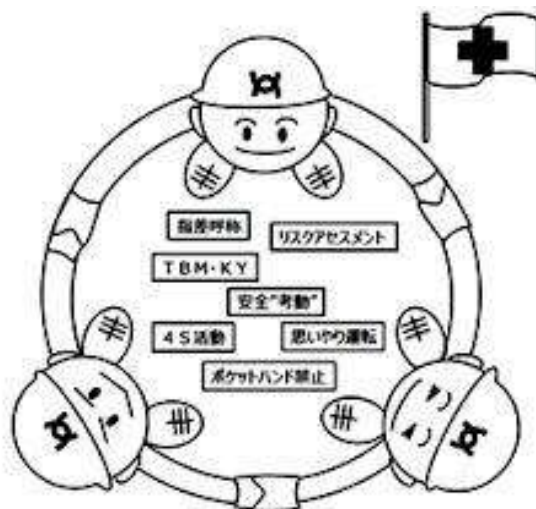
- (1) エコ商品の調査
- (2) エコ商品の切り替え

● 建設騒音・振動の発生防止

- (1) 作業工程の工夫など影響の最小限化。

● 建設現場地域との協調

- (1) 建設現場の整理整頓
- (2) 地域住民との環境コミュニケーション。



5. 環境活動取組結果の評価

(1) 目標達成状況

《本社・営業所》

| 環境目標 | 単位 | H28年度実績 | H29年度目標 | | H29年度実績 | 目標達成の判定 |
|----------------|-------------------------|---------|---------|-------|---------|---------|
| | | | H28年比 | 目標値 | 実績値 | |
| 二酸化炭素排出量 | ton -CO ₂ | 76.7 | -0.1% | 76.6 | 73.6 | ○ |
| 電気使用量 | 千kwh | 23.4 | -0.1% | 23.4 | 25.1 | × |
| 灯油使用量 | kℓ | 1.5 | -0.1% | 1.5 | 1.5 | ○ |
| ガソリン使用量 | kℓ | 17.3 | -0.1% | 17.3 | 15.1 | ○ |
| 軽油使用量 | kℓ | 8.2 | -0.1% | 8.2 | 8.7 | × |
| 液化石油ガス | kg | 6.8 | -0.1% | 6.8 | 10.1 | × |
| 廃棄物排出量 | 紙くず(一般) | ton | 0.1 | -0.1% | 0.1 | ○ |
| | 木くず(建設副産物) | ton | 104.5 | -0.1% | 104.4 | 63.7 |
| 総排水量(給水量) | m ³ | 129.0 | -0.1% | 128.9 | 120.5 | ○ |
| 資源投入の削減(コピー用紙) | 千円 | 106.8 | -0.1% | 106.7 | 113.2 | ○ |
| グリーン購入の推進 | 千円 | 418.0 | 1.0% | 422.2 | 314.9 | ○ |

*電気の二酸化炭素排出係数は、H28年度 九州電力0.462(kg-CO₂/kWh)を用いた。

《建設現場》

| No. | 目標項目 | 取組結果の評価 | 目標達成の判定 |
|-----|-------------------|--|---------|
| 1 | 二酸化炭素排出量 | 電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制。 *『マイボトル』『マイ箸』運動を行う | ○ |
| 2 | 商品の省資源化 | 建築物の長寿命化・ゼロエネルギーを推進するとともに技術提案を行う。 *長期優良・地域ブランド住宅事業の補助金により、受注につながっている。 | ○ |
| 3 | 大気汚染排出の削減 | 設計時にZEH(「ゼッチ」ネットゼロエネルギーハウス)導入の提案を行う。 *施工実績、H32年度までにZEH受託率50%を目標にしている。 | ○ |
| 4 | グリーン購入の推進 | エコマーク商品の購入等、再使用又はリサイクルしやすい製品を購入・使用するよう取組む。 *省エネ商品の提案を採用することで、受注につながっている。 | ○ |
| 5 | 建設騒音・振動の発生を極力防止する | 現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工する。 *ハイパーメガ工法等、低騒音・低振動を採用した。 | ○ |
| 6 | 地域との協調ならびに景観保存 | 地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持する。 *月一回のパトロールにより、整理整頓が良くできている。 | ○ |
| 7 | 水使用量の削減 | バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。 *「バルブ取付」と表示することにより、より一層水の使用を気を付けるようになった。 | ○ |

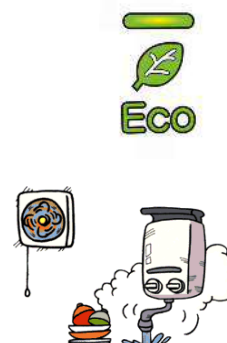
(1) 目標達成評価

《本社・営業所》

*前頁より（目標達成できなかった項目）



| 環境目標 | 単位 | H29年度目標 | H29年度実績 | 目標達成の判定 |
|--------|------|---------|---------|---------|
| | | 目標値 | 実績値 | |
| 電気使用量 | 千kwh | 23.4 | 25.1 | × |
| 軽油の使用量 | kl | 8.2 | 8.7 | × |
| 液化石油ガス | kg | 6.8 | 10.1 | × |



電気の使用量が目標達成できなかった要因としては、エアコン使用量を抑えるために新規導入した電気製品(足元ヒーターやサーキュレーター等)使用によるものやウォーターサーバーの導入も要因の一つとなっています。

軽油に関しては、2tトラックの軽油車両が1台増えた事によるものですが、今後も継続的に重点目標とします。

ガス使用に関しては、冬季の気温が、かなり低く給湯器の使用頻度が“ぐっ”と増えた事が一因です。

《建設現場》



建設現場の取り組みに関しましては、各現場担当者から協力会社等への【新規入場時にKY活動(環境活動計画含み)・環境活動表へのサイン等】により大変良く出来ています。



(2) 年度別推移

1) 電力及び化石燃料

① 使用量

| 項目 | 単位 | 使用量 | | | | |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | H25年度 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 |
| 購入電力 | 千kwh | 28.1 | 25.4 | 26.4 | 23.4 | 25.1 |
| 灯油 | kℓ | 2.0 | 1.9 | 1.6 | 1.5 | 1.5 |
| ガソリン | kℓ | 19.7 | 16.0 | 17.5 | 17.3 | 15.1 |
| 軽油 | kℓ | 13.4 | 9.8 | 8.9 | 8.2 | 8.7 |
| 液化石油ガス | kg | 43.8 | 12.4 | 7.6 | 6.8 | 10.1 |

| CO2排出係数 | |
|---------|--------------|
| 係数 | 単位 |
| 0.462 | (kg-CO2/kWh) |
| 2.49 | (kg-CO2/ℓ) |
| 2.32 | (kg-CO2/ℓ) |
| 2.62 | (kg-CO2/ℓ) |
| 3.00 | (kg-CO2/kg) |

注) 電力の排出係数は

九州電力H28年度0.462(kg-kWh)

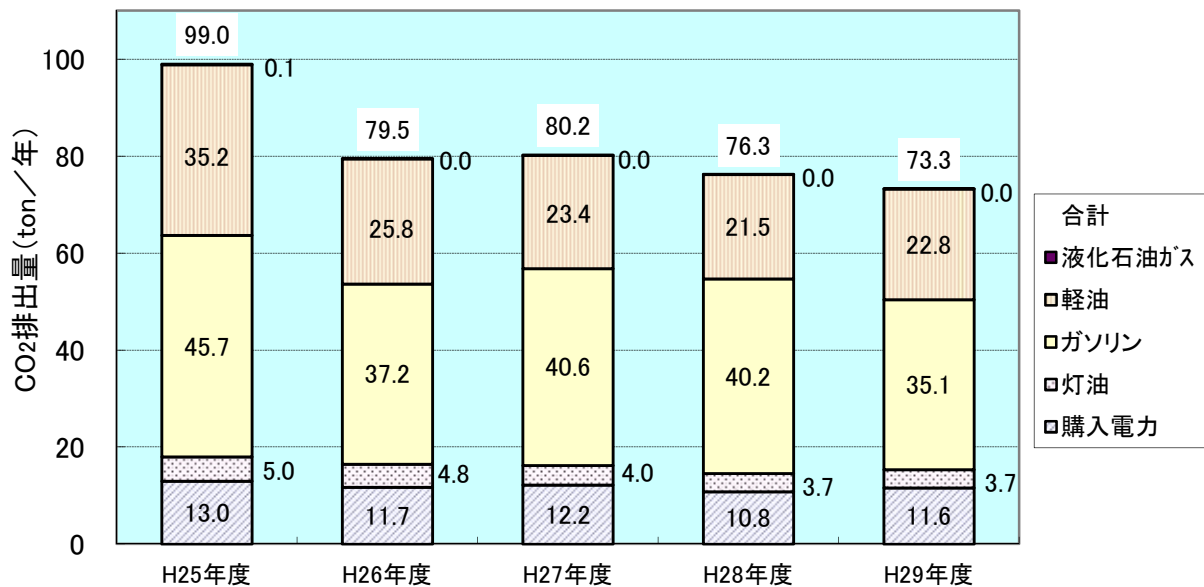
② CO2排出量

| 項目 | 単位 | CO2排出量(ton/年) | | | | |
|--------|-------|---------------|-------|-------|-------|-------|
| | | H25年度 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 |
| 購入電力 | ton/年 | 13.0 | 11.7 | 12.2 | 10.8 | 11.6 |
| 灯油 | ton/年 | 5.0 | 4.8 | 4.0 | 3.7 | 3.7 |
| ガソリン | ton/年 | 45.7 | 37.2 | 40.6 | 40.2 | 35.1 |
| 軽油 | ton/年 | 35.2 | 25.8 | 23.4 | 21.5 | 22.8 |
| 液化石油ガス | ton/年 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | ton/年 | 99.0 | 79.5 | 80.2 | 76.3 | 73.3 |

(取り組み開始比) (117.9%) (94.6%) (95.5%) (90.8%) (87.2%)

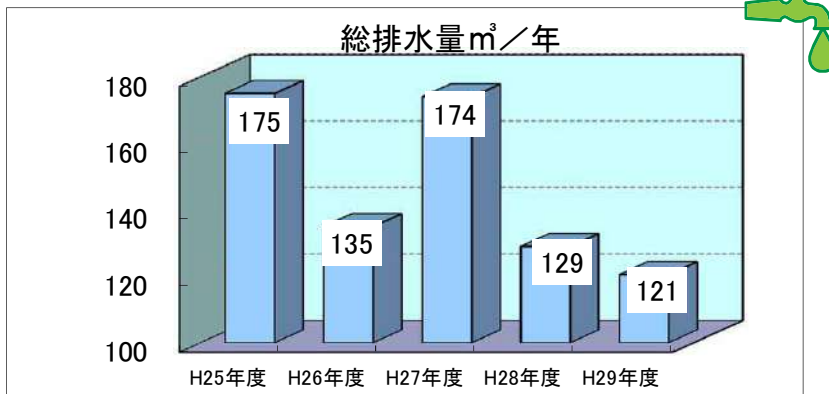


CO2排出量の推移

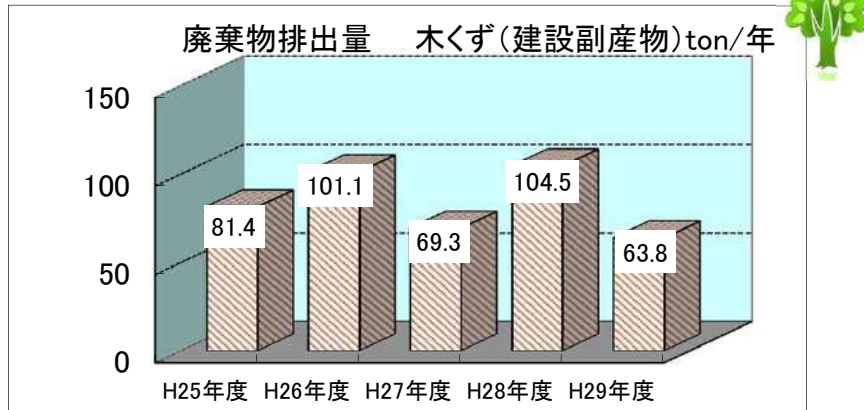


CO2排出量はH22年度の取り組み開始以降、削減効果がとても良く出来ている。ガソリン・軽油は車両台数増の中で、難しくもありますが、今後も重点目標として燃費向上に一層の努力が必要である。

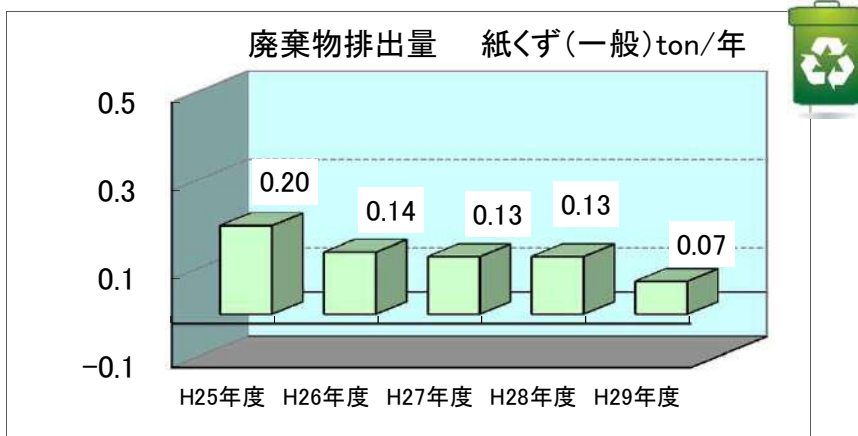
(2) 年度別推移 (つづき)



節水に関しては、最小限の使用の中、限界もありますが、社員同士の呼びかけにより、小さくも効果が出ました。



木くずに関しては、工事の受注にもよりますが、地域の方の再利用により、排出量は減っています。

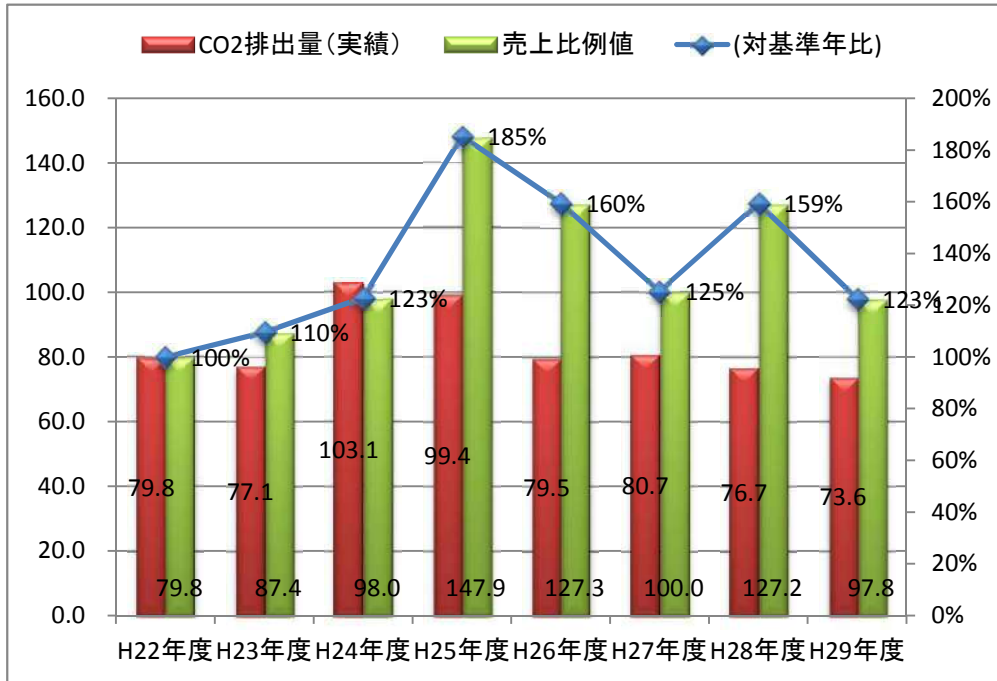


紙くずの排出量は、裏紙使用が大変良く出来ている事で、EA21取り組み当初より効果を維持している。

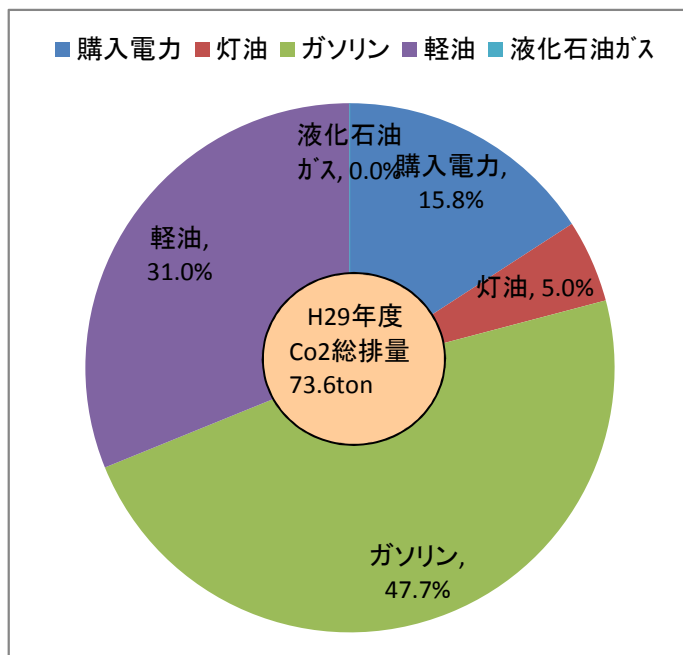
(3) 売上との比較推移

(H24.12月より合併のため社員7名増員)

二酸化炭素排出量と売上げ



取り組み当初より、受注増の中でも各項目の目標設定により削減が出来ている。

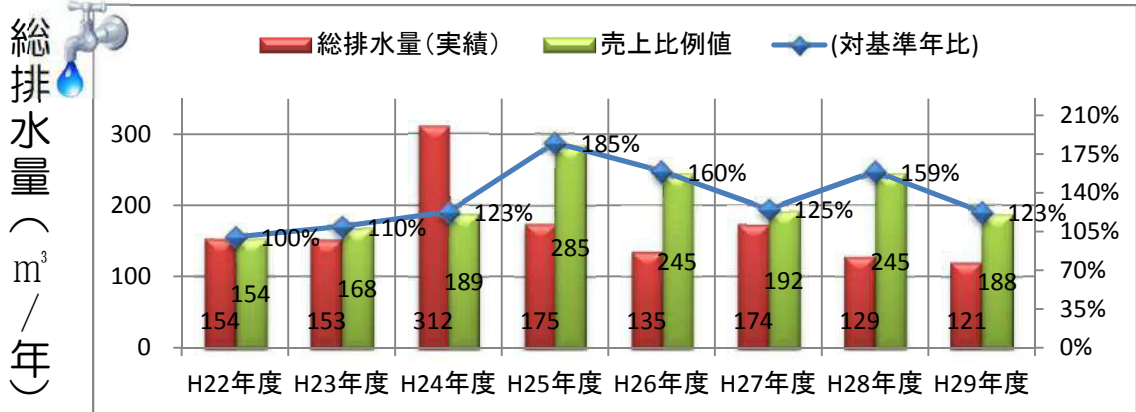


取り組み当初より、CO2排出量は、ガソリン・軽油が全体の8割近くを占める事から、一人一人が毎月、目標を立て燃費の向上に努めている。

(3) 売上との比較推移(つづき)

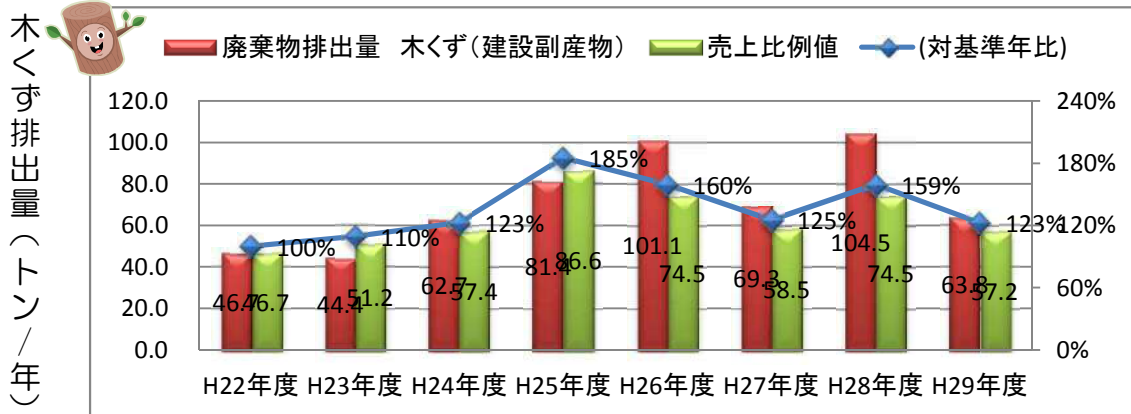
(H24.12月より合併のため社員7名増員)

総排水量と売上げ



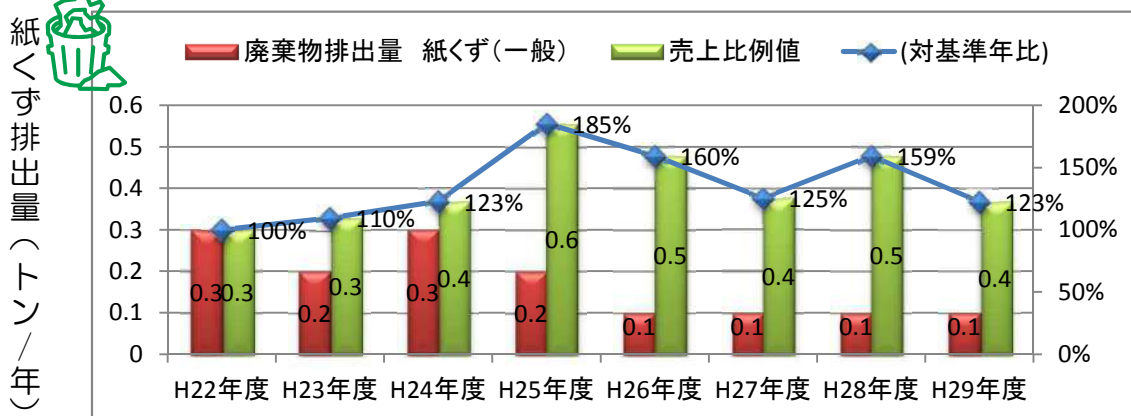
水の使用量削減は、限界であるものの、小さなことの積み重ねにて節水を今一度、強化した結果、目標達成が出来ました。

廃棄物排出量 木くず(建設副産物)と売上げ



目標達成に関しては、工事受注減にもよりますが、創意工夫が生かされています。

廃棄物排出量 紙くず(一般)と売上げ



EA21導入当初より、効果を最も維持できている中で、今後も両面コピーやミスコピーをなくすことで、なお一層積極的に取り組んでいきます。

(4) 削減による経済効果

【主要3品目の売上げ補正前後の比較】

| 環境目標 | 単位 | H20年度 (合併後体制へ 按分) | H28年度 実績 |
|---------|------|-------------------------|-------------|
| 売上げ | 百万円 | 2,073 | 2,548 |
| 電気使用量 | 千kwh | 46.8 | 23.4 |
| 削減量 | 千kwh | | 23.4 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 632 |
| ガソリン使用量 | kℓ | 23.3 | 17.3 |
| 削減量 | kℓ | | 6.0 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 753 |
| 軽油使用量 | kℓ | 15.0 | 8.2 |
| 削減量 | kℓ | | 6.8 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 711 |

| H22～H27 削減金額 累計 |
|-----------------------|
| 2,553 |
| 4,878 |
| 1435 |

| | | |
|--------|------|-------|
| 削減金額合計 | 千円/年 | 2,096 |
|--------|------|-------|

| |
|-------|
| 8,866 |
|-------|

| 環境目標 | 単位 | H20年度 (合併後体制へ 按分) | H28年度 実績 |
|----------|------|-------------------------|-------------|
| 売上げ | 百万円 | 2,073 | 2,548 |
| 電気使用量 | 千kwh | 46.8 | 23.4 |
| 売上げ補正基準値 | 千kwh | | 57.5 |
| 削減量 | 千kwh | | 34.1 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 921 |
| ガソリン使用量 | kℓ | 23.3 | 17.3 |
| 売上げ補正基準値 | kℓ | | 28.6 |
| 削減量 | kℓ | | 11.3 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 1,418 |
| 軽油使用量 | kℓ | 15.0 | 8.2 |
| 売上げ補正基準値 | kℓ | | 18.4 |
| 削減量 | kℓ | | 10.2 |
| 削減金額 | 千円/年 | | 1,067 |

| H22～H27 削減金額 累計 |
|-----------------------|
| 2,415 |
| 7,226 |
| 2,624 |

| | | |
|--------|------|-------|
| 削減金額合計 | 千円/年 | 3,406 |
|--------|------|-------|

| |
|--------|
| 12,265 |
|--------|

| 環境目標 | 単位 | H29年度実績 補正前 | 環境目標 | 単位 | H29年度実績 補正後 |
|---------|------|----------------|----------|------|----------------|
| 売上げ | 百万円 | 1,958 | 売上げ | 百万円 | 2,548 |
| 電気使用量 | 千kwh | 25.1 | 電気使用量 | 千kwh | 25.1 |
| 削減量 | 千kwh | 21.7 | 売上げ補正基準値 | 千kwh | 57.5 |
| 削減金額 | 千円/年 | 586 | 削減量 | 千kwh | 32.4 |
| ガソリン使用量 | kℓ | 15.1 | 削減金額 | 千円/年 | 875 |
| 削減量 | kℓ | 8.2 | ガソリン使用量 | kℓ | 15.1 |
| 削減金額 | 千円/年 | 1,109 | 売上げ補正基準値 | kℓ | 28.6 |
| 軽油使用量 | kℓ | 8.7 | 削減量 | kℓ | 13.5 |
| 削減量 | kℓ | 6.3 | 削減金額 | 千円/年 | 1,832 |
| 削減金額 | 千円/年 | 721 | 軽油使用量 | kℓ | 8.7 |
| 削減金額合計 | 千円/年 | 2,417 | 売上げ補正基準値 | kℓ | 18.4 |
| | | | 削減量 | kℓ | 9.7 |
| | | | 削減金額 | 千円/年 | 1,115 |
| | | | 削減金額合計 | 千円/年 | 3,822 |

*H20年度(基準年度)の数値は、合併後体制の数値に按分して行った。

| 補正前 |
|---------------------|
| H28年度単価 |
| 27 円/kWh |
| 125.5 円/ℓ |
| 104.6 円/ℓ |
| 運用開始22年度～28年度 累計 |
| 10,962 千円 |

| 補正後 |
|---------------------|
| H28年度単価 |
| 27 円/kWh |
| 125.5 円/ℓ |
| 104.6 円/ℓ |
| 運用開始22年度～28年度 累計 |
| 15,671 千円 |

| 29年度 単価 |
|-------------------|
| 27 円/kWh |
| 135.3 円/ℓ |
| 114.5 円/ℓ |
| 補正前 |
| H22年度～H29年度 累計 |
| 13,379 千円 |
| 補正後 |
| H22年度～H29年度 累計 |
| 19,493 千円 |

取り組み開始(H22年度)以降の主要3品目(電力、ガソリン、軽油)について削減の経済効果を集計した結果、売上げ補正前で毎年平均167万円、補正後243万円、効果を上げている。

6. 次年度の活動計画の内容

(1) 二酸化炭素の排出量の削減

当社の二酸化炭素排出量の95%弱を占める、電気・ガソリン・軽油の使用量、特に車両燃料に関しては、工事の受注量や現場の遠近等にもよりますが、平成28年度より毎月、各自の燃費設定の目標をたてた事で、ガソリン・軽油の合計使用量に関しましては、目標達成ができています。又、電気に関しては、エアコン・灯油の使用量を抑えるために導入した、新規電化製品も要因のひとつになっていますが、今後も『小さなことの積み重ね』を合言葉に積極的な取り組みと皆の関心をつなげる努力を継続していきます。



(2) 廃棄物排出量の削減

紙の排出量に関しては、取り組み当初より、『今日から誰でもできる』という取り組み易さで大きな成果を上げている。又、印刷時におけるプレビューの確認でミスコピーをなくす事や両面コピー印刷により、より一層の効果を期待しています。木くずに関しては、手作りインテリアに関心が高まる中、近隣の方が持ち帰る事が増えているため、今後は車に乗せやすい大きさにカットしておくよう心掛ける。



(3) 総排水量・資源投入の削減

水使用量に関しては、最小限の使用の中、今後も維持継続を心がけ、節約意識を高めることにより、一人一人が、成果を上げる事に努めていきます。



7. 環境関連法規等の遵守状況

(1) 環境関連法規則違反、訴訟等の有無

環境関連法規則等の遵守状況の評価を行った結果、環境関連法規則等の逸脱はなく、順守している。尚、法的違反や訴訟・苦情について過去8年間ありません。

8. トピックス

TOPICS



安全衛生協力会による安全大会

*H29.11/24

今年度も176名という大勢の参加の中、安全表彰3名、環境活動に最も功績のあった社員への**エコロジー表彰1名**を記念品と共に表彰する事が出来ました事、厚くお礼申し上げます。

震災からの復旧・復興や2020年、東京オリンピック、パラリンピックに向けて、建設需要が増加しているが、こうした中で安全な建設現場を構築するためには、安全衛生対策に必要な経費が確保され、それが元請事業者から下請事業者まで行き渡ることが重要である。



9. 代表者によるコメント



エコアクション21環境経営システムを運用して8年、
『未来のために今できること』

豊かな地球の恵みを次世代へ
建築と環境商品を通じ、次世代へつなげるライフスタイルを提案すること
が、私たちの責務だと考えます。

今年度、(H29年度)電気の使用量が目標達成できなかった要因のひとつ
としては、エアコンやガス、水の使用を抑えるため、新規導入した電気製
品等によるものと考えられます。又、軽油に関しては、車両台数増による
ものであり、液化石油ガスについては、寒さ厳しい中、給湯器の使用頻度
が増えた事によって、目標達成ができていませんが、取組(H22年度)開
始より8年間で売上げ補正前にて、累計1330万円程、補正後は195
0万円弱の効果となっています。
この結果を各自が念頭におき、今後も地域の密着を更に図り、信頼され続
けていけるよう、歩みを止めることなく、社員一丸となって取り組んでい
きます。

地球環境に配慮しながら、より多くの方が少ない資源と共存するために、
『今すぐ実践できること』を合言葉に環境保全に貢献します。



平成30年6月26日

宮田建設株式会社

横井 成昭

安全大会後、忘年会にて……。
(H29.11/24)

